

に仕、其上私之意地を立、御用支申様成族も有之躰候。其段別而奉行人之無疎略申談、何方も宜相調候様に可申付候。此上にも於相滞は、奉行等之手前急度御僉議可有之候條、可得其意候。以上。

(享保元年)
二月 日

七三 諸頭諸役人得御内意候儀に付被仰出

御先代より諸頭・諸役人より、御用之品により奉得御内意候儀共有之、至御當代候ては尙更奉得御内意候故、事により被遊にき儀も有之候。向後從御前直に御尋之儀、又は御近習之面々奉得御内意來候品、或御算用場奉行等御入用方之儀等に付、直に言上いたし來候儀は格別、諸頭・諸役人組之儀、其外手先之御用に付直に申上候儀は、追而被仰出等有之迄は指扣、不依何事年寄中等迄相達可申候。若又表向之難及御沙汰之品にて、直に致言上可然儀は、年寄中等迄先及内談、指圖次第可仕候。心任に御内意等伺候儀は、一向可爲無用候。右之趣夫々申聞置候様に御内意候事。

組等之内役儀有之人々も、右之趣可被申聞事。

別紙之趣可被得其意候。畢竟直に御内意相伺候儀指扣、年寄中等迄書付指扣可申候。左候得ば御格式を相考、先例等僉議之上年寄中より相窺、御下知之趣申渡候儀に候間、都て伺之儀は年寄中等迄可申出候。相伺候儀にて無之、直に達御聽來候儀は前々之通に相心得可然。去ども秘し可申儀にて無之品にても、箱に認封じ候而直に差上候故、御用に御取込被遊候御時分にてても、何等之儀に候哉御計難被遊、早速御覽被遊候様に有之、毎度御邪魔に成候間、輕き儀は御近習頭中迄口上にて申達、入組候儀紙面にて無之候はで難成儀は、披候て右頭中迄相達可申候。御横目方等御用にてても、其差別可有之儀に候。

一、年寄中等に及相談、奉得御内意候様に指圖之品は、其趣右頭中迄申演差上可申候。
(享保十年)
巳六月初日

七四 朔望・式日等に不急之書付不出申儀被仰出

朔望・嘉節并式日には、不指急書付等出不申筈に候處、其以來不指急品も御用番に指出候面々有之、遂僉議候品之障に成申候。重而は、若心得違にて指出候とも可相返候間、此旨頭・支配人并奉行御役人可申聞置候。以上。

(享保十一年)
丙午十二月

七五 火事之節紛失物届出之儀觸

惣而火事之節、火本近邊等被盜物有之候ば、家來末々迄其品々書記、私方に斷有之候様、御家中一統被仰渡候様仕度奉存候。勿論被盜物之儀は斷有之候得共、火事之節之儀に限何方よりも斷無御座候。此儀は燒失、紛失、被盜物難決候故、斷無御座与奉存候。被盜物決不申候而茂、紛失之品之物有之候は、紛失仕候段書出候様に仕度奉存候。御吟味之手懸罷成候儀御座候。且又火事近所疑敷者入込候ば、賊等之槌成儀不見届候ても召捕、私方に差出候様、是又被仰渡置候様に仕度奉存候。以上。

(享保十四年)
三月四日

本多安房守様

半田安左衛門

半田安左衛門紙面別紙之通候條、組・支配之面々可被申渡候。組等之内裁許有之人々は、是又夫々申觸候様可被申渡候。且又同役中可有傳達事。右之趣可被得其意候。以上。

三月六日

本多安房守

七六 鷹に土餌飼申事停止之儀觸

近年鷹に土餌飼候儀、不苦筋に罷成候得共、思召之趣御座候に付、向後土餌のため犬捕申儀指止候様被仰出候條、御家中之人々一統承知有之候様御申渡可被成事。

(享保十八年)
十二月

別紙之通若年寄中申聞候條、被得其意、組・支配之人々に可被申渡候。組等之内裁許有之面々は、其支配へも相觸之様被申聞同役中可有傳達事。右之趣可被得其意候。以上。

十二月廿六日

長 甲斐守